

シェアハウス改修大作戦

エンジニア科2年 林産業コース 久野春奈



【背景】

- ・実践的に建築を学びたい
- ・形に残って繋げていけるものを作りたい
- ・古民家のシェアハウスを活用したい

問題点

洗濯物を干す場所がない



1916年(大正5年)築
女性専用シェアハウス

屋根にデッキのつけたらいいじゃん



①『メンテナンスしやすいデッキ』

シンプルなデザイン

メンテナンスBOOK

②『みんなが使いたくなるデッキ』

超安心デッキ

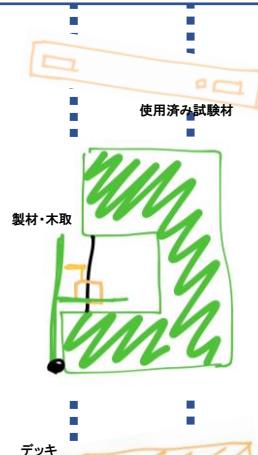
広々とした空間

WOOD ACから使用済みの試験材を頂いた

リユース材

→メンテナンスしていくにあたり
継続的に手に入りやすい材

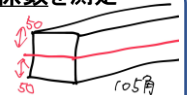
割れや
加工跡が多め



全デッキ板48本のヤング係数を測定
→強度がかなり弱い



デッキ板を分厚く(50mm厚)することで
たわみを少なく



デッキを4分割で設置

→メンテナンスや工事をしやすく

じつは…

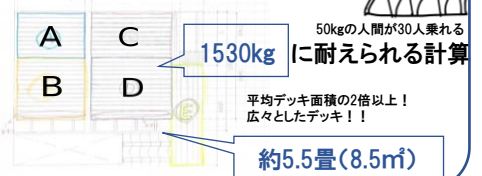
50mmより薄いとそりやすく
50mmより厚いと割れやすい



メンテナンスBOOK
の一部

シェアハウスのリビング、
インクの事務所、
木造建築の教員室に保管

デジタルスパン表で
耐えられる寸法を決定



before



after



【まとめ】
「100年かけて育った木は
100年使える」
森林文化アカデミーで森の恵みを頂くありがたさを再確認したからこそ森林資源を大切に使い、次世代に森を繋いでいきたいです。
このデッキがメンテナンスを行いながらシェアハウスと共に長く使われると嬉しいです。



洗濯物干す時のデッキの安定感にいつも感動します。
工を手伝って下さった皆さん本当にありがとうございました。

